

MRIを今年9月、最新機種に更新 地域に根差した安心な医療に努める



今年9月に更新した最新鋭のMRI磁気共鳴装置



今年2月、人工透析装置と電子カルテとのネットワーク化を構築。患者のバイタルデータを瞬時に確認・共有化が可能となった。



理事長・院長 館山 美樹

1982年北里大学医学部卒業後、北大第3内科入局。道内主要病院勤務を経て1995年苫小牧日翔病院勤務、2005年同院副院長。2015年4月同院院長。2016年4月医療法人社団養生館理事長に就任。

胆振、日高地区の高度急性性期医療の提供を目標に、1989年の開設から28年目を迎えた医療法人社団養生館。最先端医療機器の更新、診療科体制の強化、医療水準の質の向上を図り、常に最新医療を追求する苫小牧日翔病院と、苫小牧市内唯一の神経内科専門医が在籍し、脳や脊髄、筋肉などの神経症状、ALS等の難病にも対応する青葉病院にて、胆振、日高管内の地域医療発展に貢献している。今年4月に館山美樹院長が新理事長(院長兼務)に就任、前理事長の熊谷文昭氏が名誉理事長となり、新たな体制を構築、さらなる高度急性性期医療の発展、患者サービスの向上を目指す。

今年9月にGEヘルスケア社製の最新式デジタル1.5テスラMRI(磁気共鳴断層撮影装置)を更新。従来の装置と比べ撮影時間が約25%短縮、高精細な画像を高画質かつ短時間で撮影することが可能となり、患者の身体的、精神的負担も軽減。頭部MRIでは、造影剤を用いずに非侵襲的に数分で脳灌流画像の撮影をすることができ、発症からの時間が重要視される脳梗塞診断などに威力を発揮する。

最新式MRIの他に、64列マルチスライスCTや血管造影装置、マンモグラフィーなど各種高度検査・治療機器を備え、昨年は内視鏡を最新のレーザー光源システムに更新、精度の高い医療を提供している。

透析医療においては東胆振・日高地域の基幹病院として、患者数は約300人と道内3番目。透析センターでは今年2月から大規模施設では類をみない最新の透析装置連動システムを構築。医師、スタッフが迅速に患者情報を共有し、適切で安全な医療提供、業務効率化が実現された。

各科の常勤医のほか、北大から常時非常勤専門医を迎え、また北海道がんセンター出張医による乳腺専門外来も行うなど、最新かつ高度な治療、安心の医療サービスを提供できる体制が整っている。

常に医療の充実に努める背景として館山理事長は「当院には各診療分野において実績のある医師が集まっており、専門性の高い医療の提供を常に目指している。また最先端医療機器の導入を行うことで、都市部との医療格差を無くし、苫小牧にいながら誰もが全国標準以上の医療が受けられるよう地域に根ざした安心な医療提供に努めたい」と話す。

外科・内科・消化器内科・循環器内科・腫瘍内科・整形外科・脳神経外科・泌尿器科・形成外科・リウマチ科・リハビリテーション科
麻酔科・透析センター

医療法人社団養生館 苫小牧日翔病院

苫小牧市矢代町2丁目9番13号 ☎(0144)72-7000
ホームページ <http://www.nisshou-hospital.jp/>

診療時間/
月～金曜/9:00～12:00 13:30～17:00
土曜/9:00～12:00

※24時間救急対応可能
診療時間や担当医は当日変更になる場合がございます。詳細は当日お電話(0144)72-7000にてお気軽にお問い合わせください。

休診日/日・祝日・年末年始
8/1(開院記念日)・8/16(お盆休み)

